



広報かわじま

Kawajima



特産品「いちじく」出荷準備 OK！

写真はいちじく目揃え会の様子。詳細は P5 をご覧ください。

Vol.762
2023
10月号

「地域をつくる」×「深くまなぶ」

～近隣大学との連携・協力～

【問合せ】生涯学習課 ☎ 299-1711

町は近隣大学と「地域連携包括協定」を結んでいます。この協定の目的は、お互いの資源を生かし、協働して事業に取り組むことで、地域社会を発展させることです。

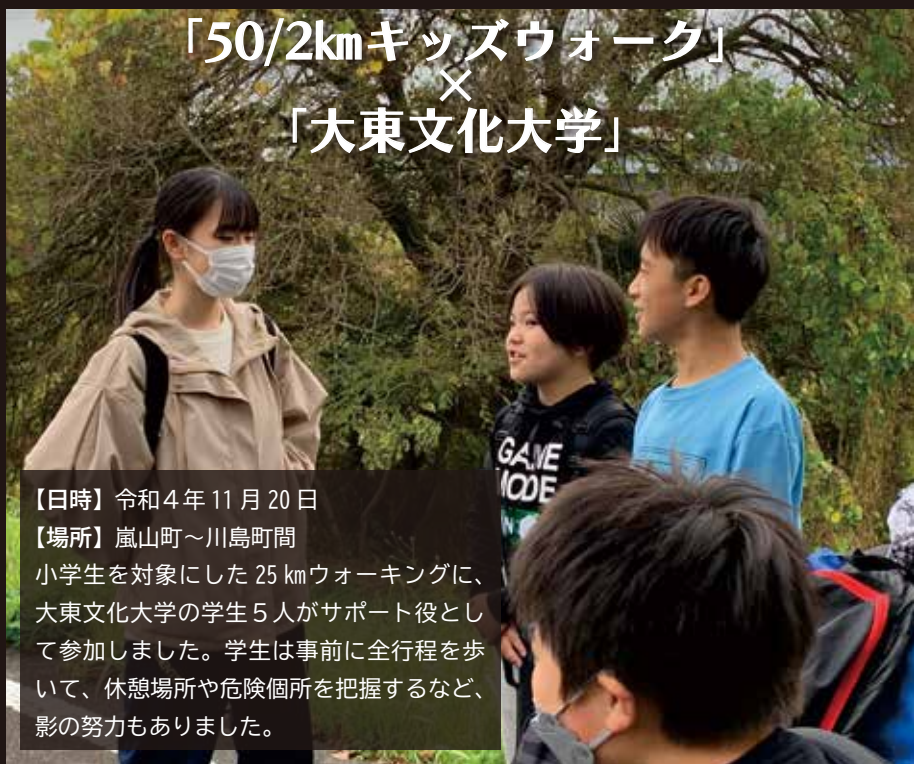
学生が地域で多様な体験をすることで、学内での学びが深まることを期待する大学。対して、学生の参画により地域を活性化し、若い力が地域課題解決につながることを期待する川島町。お互いが利益を与え合う関係でなければ成果は出ません。町では、近隣大学との連携を「教育行政重点施策」に位置づけて取り組んでいます。今回はその一例を紹介します。

実習担当の先生からひと言

参加した学生は「実際に行って、見て、職員や町民の方と話して、イベントにも参加して、事前に調べたこと以上の町の魅力を発見できた。」と言っていました。

大学と自治体の連携は、学生が学外に出ることで学びが広がり、さらに地域の方との交流が社会参加に繋がるなど、様々な教育的可能性を持っています。

地域イベントへの持続的な参加は、学生が、関わった人との信頼関係や、新たな活力を生み出すことにも繋がります。さらに学生がイベントの企画・立案へと展開することで、新たな連携の化学反応が期待できます。
大東文化大学 社会学部 阿部英之助



「50/2kmキッズウォーク」 × 「大東文化大学」

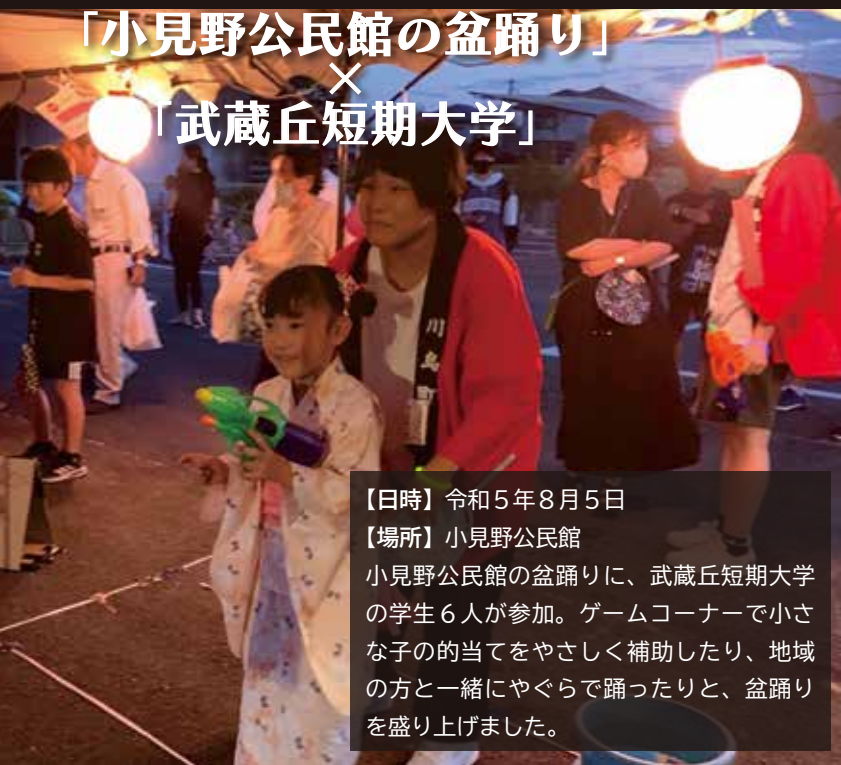
【日時】令和4年11月20日

【場所】嵐山町～川島町間

小学生を対象にした25kmウォーキングに、大東文化大学の学生5人がサポート役として参加しました。学生は事前に全行程を歩いて、休憩場所や危険箇所を把握するなど、影の努力もありました。

「小見野公民館の盆踊り」

× 「武蔵丘短期大学」



【日時】令和5年8月5日

【場所】小見野公民館

小見野公民館の盆踊りに、武蔵丘短期大学の学生6人が参加。ゲームコーナーで小さな子の的当てをやさしく補助したり、地域の方と一緒にやぐらで踊ったりと、盆踊りを盛り上げました。

実習担当の先生からひと言

メダカすくい、ストラックアウト、水鉄砲、盆踊り…。どこを見ても、子どもたちの目はキラキラと輝いている。

4年ぶりの小見野公民館での盆踊り大会。「地域を盛り上げよう！」のコンセプトのもと、武蔵丘短期大学の学生が地域貢献の授業でボランティア参加し、夏祭りを盛り上げました。

学生は、子どもを笑顔にする天才。距離の取り方や言葉使いが絶妙。すぐに仲良くなれる。全ての学生が役割を見つけ、「夏祭りの一員」として自らが一番楽しんでいるようでした。「地域交流」は学内では学べない生きた学びの場。学生、教員ともに多くの「気づき」を得ることができました。

武蔵丘短期大学 健康生活学科 八板将明

町民カメラマンが撮影 と き 川島町のその瞬間

広報かわしま Vol.1762

編集 政策推進課 秘書室
令和5年(2023年)10月1日発行

発行 川島町 〒350-0192 埼玉県比企郡川島町大字下八ツ木870番地1

☎049-299-1751 FAX049-297-6058
町ホームページ <https://www.town.kawajima.saitama.jp>



「今年もおいしいお米ができました。」 撮影場所：旧小見野小学校付近
【町民カメラマン】染谷 勝文さん撮影 2023.9.11 正午

町民カメラマンは、町の催しや景色などを写真撮影し、町の紹介やPRをするボランティアの皆さんです。現在13人が活動し、毎月、魅力ある「川島町のその瞬間」を紹介しています。

【問合せ】政策推進課 秘書室 ☎299-1751

季節に応じて姿を変える田んぼ景色 今年も新米の季節がやってきました

秋になると収穫されるお米。食品表示基準によると、秋に収穫し、その年の12月31日までに精米、包装されたお米が「新米」とされています。すでにスーパーなどでは、新米が売られているところを見かけます。

春の田植えからすくすくと育ち、秋に黄金色の稲穂が垂れ下がってきたころには稲刈りと、季節によって移り変わる田んぼの景色。今もなお、町の面積の約4割を水田が占める川島町ではおなじみの風景ですね。

すでに食べられた方も多いかと思いますが、改めて、「川島町の新米をぜひ、ご堪能ください。」

